

# 研究業務の紹介

## 病理グループ：病理学を生かして動物衛生に貢献

TANIMURA Nobuhiko

病態研究領域 領域長補佐 谷村 信彦

動物衛生研究所・病態研究領域の病理担当研究員は8名から成り、家畜疾病の病理学的診断および研究を担っています。また、本所のプリオン病病理研究員、動物疾病対策センター疫学情報室長、疾病診断室長、病理標本作製等を担う技術系一般職員2名、北海道・東北・九州支所の病理担当研究員4名らとも協力して研究課題、病性鑑定、家畜衛生研修会等の業務に取り組んでいます。

獣医病理学は動物個体の形態学的観察を基盤にして病態や病因を解明することを基本にしています。病理学を支える技術の進歩により、光学・電子顕微鏡検査に加え、免疫組織化学、分子病理学を総合した研究も行われています。個体に病を引き起こす病因は多様であるため、私達はウイルス・疫学や細菌・寄生虫等の研究領域と協力しながら、重要疾病の診断や発病機構の解明に取り組んでいます。現在の課題は、「牛のヨーネ病とヒトの炎症性腸疾患の比較病理学的研究」、「牛の細菌、ウイルスおよび中毒性肺炎に関する比較病理学的研究」、「豚繁殖・呼吸障害症候群ウイルスの病原性に関する病理学的研究」、「持続性ウイルス感染症の病理学的診断法の開発と類症鑑別法の高度化」、「豚腸管ピコルナウイルスの病原性の病理学的解析」、「鶏アデノウイルス感染症の診断技術の向上と発病機構の病理学的解析」、「鳥インフルエンザウイルスの家畜への伝播動物の解析」、「フザリウム属かび毒が家畜に及ぼす

影響評価」等があり、獣医病理学の立場から動物衛生に貢献しています。

私達は農場等で問題となっている疾病を把握し、診断の精度向上を図るため、症例検討会を開催し症例報告を発表するよう努めています。つくば病理談話会では関東と近県の家畜保健衛生所等の病理担当者と共に症例の病理診断を討議し、症例報告を臨床獣医に掲載しています。Joint Pathology Center (JPC) スライドセミナーでは米国 JPC が主催する獣医病理スライドカンファレンスの症例報告を学ぶことができます。農水省消費・安全局動物衛生課が主催する家畜衛生研修会（病性鑑定病理部門）では全国の病理担当者と共に症例の病理診断を討議し、事例記録を日本獣医師会雑誌に掲載しています。また、動衛研 HP の「NIAH 病理アトラス」では病理診断に役立つ肉眼・病理組織等の画像を動物・疾病別に公開しています。これらの症例報告やアトラスは病性鑑定の有益な資料として活用されています。



後列左から 佐藤、小林、水野、生澤、山本、鎌賀、安藤、嶋田、下久保、青山、安家、稲垣  
前列左から 山田、芝原、川島、谷村、播谷、オギー、百溪、中村  
つくば本所の病理グループ（2012年5月8日撮影）（研修生を含む）